



和泉市消防団だより

第11号

■和泉市消防団本部■ 和泉市一条院町140-2 (代)0725-41-0119 (直)0725-41-6287

発行責任者 団長 萩本恵隆

編集責任者 副団長 吉村秀人

令和6年度全国統一防火標語

守りたい 未来があるから 火の用心

和泉市消防本部・和泉消防署

新庁舎完成



現在、和泉市一条院町にある和泉市消防本部・和泉消防署・和泉市消防団本部（築52年）が府中町四丁目（旧和泉市立病院跡地）に移転し、令和6年12月1日より開庁します。

新庁舎については、市民の生命・身体・財産を守るという強固な意志を表現し、グレー（岩）を基調に建設しており、内一室は消防団の拠点となる消防団室を配置し、消防団章が桜の花を使用しており、これは桜の花のように“潔し”と言う心意気を表していると言われていることから桜色のクロスを使用しています。

消防団室とは、災害時に消防団本部が参集し、和泉市消防本部と密に連携を図り、団員に活動指示を行う、いわば消防団の作戦指令室と言える重要な拠点となります。

拠点の移転に伴い、今後ともより一層和泉市消防本部と連携し、地域の安全・安心の確保という使命のもと、地域に密着した、減災活動等に取り組み、市民の皆様の信頼と負託に応えていくため、和泉市消防団として全力を尽くしてまいります。



消防出初式



令和六年和泉市消防出初式が、一月六日(土)に黒鳥山公園にて開催されました。

式典が始まる前には、一月一日十六時十分に発生した能登半島地震により多くの犠牲となられた方々に参加者全員で黙祷を捧げました。

式典では、萩本団長の開会宣言から始まり、来賓者による人員及び車輛の視閲の後、今年は岡田消防長と萩本団長により、決意宣言が行われました。

サブライズとして予定されていた消防キャラクターと職員によるパフォーマンスは災害派遣中のために中止となりました。

式典最後の一斉放水は、能登地方の一日も早い復興と皆様の安全安心を願って、素晴らしいBGM音楽と共に終了しました。

支部総合訓練



猛暑の中、泉北地区支部総合訓練が泉大津市汐見公園多目的広場において多数の来賓者出席のもと開催されました。

訓練は二百五十名の整列から始まり人員機械の報告、九月に行われる大阪府消防操法大会に出場する(小型ポンプ操法の部・忠岡町消防団、ポンプ車操法の部・堺市美原消防団)消防操法訓練の披露や一斉放水、優良消防団員表彰式、操法訓練激励会などが行われました。

和泉市消防団からは団長以下六十名の団員が訓練に参加しました。

開催日時：令和6年8月18日

9時30分開式

開催場所：汐見公園多目的広場

参加団体：和泉市、堺市美原区、高石市、泉大津市、忠岡町の各消防団

新鋭消防車配備



令和五年十二月に第五分団北田中・岡班に消防ポンプ車が新たに配備されました。

従来のポンプ車とは違い、放水の為にポンプへの切り替え等もすべて手動だったのが、車両がオートマチックになりポンプはスイッチと少しの操作で切り替えが出来る様になり、旧ポンプ車に比べ新しい装備が追加されて新車両、新装備で大きく変わりましたが、火災現場でのトラブルが無い様に訓練をかさねて励んでまいります。

今後とも、横山地区皆様のご理解とご協力を頂きながら皆様の安心、安全、生命、財産を守る様に班員一同、より一層精進してまいります。

最後に、横山地区各町会、自治会の皆様には日頃より消防団活動に協力していただき感謝申し上げますとともに、新ポンプ車配備に際してご尽力いただいた消防本部の方々をはじめ関係者の皆様には、心より感謝申し上げます。

第五分団 班長 壺井 一弥

年間行事



令和6年

4月1日 辞令交付式

初任団員研修会

基礎教育訓練A

基礎教育訓練B

機関員講習

大阪の消防大賞表彰式

泉北地区支部総合訓練

大阪府消防大会

初級指導課程

現場指揮課程A

和泉市地域防災訓練

各地区別防災訓練

泉北地区支部視察研修

現場指揮課程B

分団指揮課程

消防団夜警激励訪問

令和7年

1月11日 和泉市消防出初式

可搬ポンプ課程

消防団員健康診断

1月19日

1月26日

2月2日

3月未定

3月未定

大阪府消防表彰式

救助資機材取扱訓練

令和7年消防出初式

開催日 1月11日(土)

開催場所 黒鳥山公園



消防団員紹介

第一分団 団員 井畑 秀宣

私が入団したきっかけは祖父が消防団員であったこともあり、地元の町の先輩方からの紹介で入団させていただくことになりました。

入団当初の消防学校での初任訓練や分団での月例訓練で火災時の消火活動をはじめ、自然災害や救急時の対応、AEDの救命活動など色々なことを学ぶことができ、大変貴重な経験をさせていただいております。

また地元は同じながらも様々な年齢や職業の方々と活動させていただいていることから、消防団の活動を通じて、興味深いお話をたくさん聞くことができ、困っていると相談に乗っていただくこともあり、学びや成長に繋がっています。

微力ながら、これからも先輩方が築き上げた歴史ある伝統と実績を大切に守り、消防団の活動を行っていききたいと思います。

第二分団 班長 辻 智弥

二十年程前の話になりますが、私は二十七歳から三十二歳まで五年間ほど神戸市の兵庫区に住んでいました。そこで地元の消防団の方達との交流が生まれました。地元の居酒屋で消防団の方達に混ざって色々な話を聞かせて頂きました。勿論、熱く話してくれる内容は阪神淡路大震災の当時の事です。

私は震災当時、高校生だったので恥ずかしい話ですがニュースで見聞きする程度の知識しかありませんでした。でも、消防団の方が話して下

さる内容は想像を絶するものでした。私は消防団員としてあの方達の思いを受け継いで仲間と一緒に「自分たちの街は自分たちで守る」と言う熱い思いを持ってこれからも活動に励みたいと思います。

第三分団 班長 阪東 剛史

今年度から、春木班の班長をさせて頂くことになりました。

入団してから、火災・自然災害での活動を何度も経験しました。

今年度も、既に大雨での出動や火災での出動があり、今までとは違い、班の先頭に立って、団員を引っ張っていく立場になり、身の引き締まる思いです。

第三分団には、文化財の松尾寺等があります。火災だけではなく自然災害時にも、しっかりと対応ができるように、日頃からの訓練等も皆で一丸となり、地域の方々と協力していきたいと思っています。

第四分団 団員 玉村 良

入団のきっかけは、地域の方々と和泉市消防団に所属し活動しているのを見ていたので知人に紹介してもらい、私も地域のために何か役に立ちたいという思いが入団しました。

消防団活動にはできる範囲で参加しています。負担になっていることはあまりありません。もともと仕事以外の付き合いが嫌いで、地域の方々とのコミュニケーションがなかった私ですが、消防団に入ると地域の方々とふれあう機会がたくさんありますので、多くの人たちから刺激を受け自身の視野が広がりました。

また分団長や団員の方々も優しく、丁寧に指導していただいたおかげで、消防団活動をスムーズに行えるようになりました。自身にとつてプラスな一面が有り、人として成長させていただき、地域の方々や同じ第四分団の方には日頃より感謝の気持ちで一杯です。

第五分団 班長 小川 真史

私が五分団に入団して七年目となり、本年度より班長をさせて頂くことになりました。

横山地区で仕事をしていて、入団前より地域の火災や災害、祭事において先輩たちの活躍を見ていました。消防団のお誘いがあつたときも、自分も同じように行動できることが不安でしたが、入団して分かったことが、消防団活動は日々の訓練と、仲間との信頼関係が大事だと気付かされました。

近年、気候が極端となり、今まで体験したことがないような豪雨や暴風が発生し、地域内でも思ってもいなかった災害が発生する可能性が高まっているように感じます。私自身、技量不足を感じますが、班長という立場で責任も大きくなりました。団員や地域の方々の協力を得ながら有事に備え消防団活動に尽力したいと思っています。

第六分団 団員 三浦 祐助

今年度より地元の先輩より誘って頂き消防団に入団しました。入団前の印象として、町内に消防団があることは知っていたものの地元で仕事をしていたので日中の活動が難しく、自分にはあまり関係のないものと思っていました。

何もわからずに消防団に入りましたが、月に一回の訓練では、班の先輩が資器材の使い方や点検に関することなど丁寧に教えて頂いています。

また二日間の消防学校での基礎訓練では、火災等の現場の危険性や安全に活動するために必要なスキルを学ばせて頂きました。覚えることが多く一度ですべての知識や技術を習得することは難しく災害現場で活躍できるか不安ですが、定期的な訓練に励み、まだ現場に出場したことはありませんが、万一、出場することがあつたときに備えて知識技術向上に取り組んで参りたいと思います。

また火災以外の自然災害発生時等にも出場するので、防災力の向上にも取り組み消防団員として活躍できるように取り組み参りたいと思います。

第七分団 副分団長 佐藤 裕是

日頃は、消防団活動にご支援ご協力を頂き有難うございます。

第七分団は、団員二十六名、三個班、消防車輛三台で構成されていて、北池田校区・いぶき野校区を担当し、火災・災害に備えて放水訓練・機関訓練・巡回パトロール・器具点検を行っております。

これまで以上に、いつ起きるかわからない災害などに対応出来る様に少しでも地域のお役に立てるよう分団全員で日頃の訓練を頑張っていきたいと思っています。

第八分団 団員 茅沼 仁志

私は平成二十四年に和泉市消防団に入団しました。入団のきっかけは、すでに入団していた先輩の誘いでした。最初は自分にはそのような重大

な任務が務まるとは思えず丁寧に断りをしていましたが、以前から地域へ貢献したいという気持ちで強く入団へと至りました。

私は、ボランティアから始まり今では職業として地域の青少年の育成をしています。そのことを通して、人と人との結び付きの大切さを実感し、私が生まれ育った和泉市の人町を守っていききたいと感じました。

現在第八分団において、分団員として火災を中心に災害等に迅速に対応すべく先輩方とともに団活動に励んでおります。本業の傍らということもあり十分に参加はできていない状況ですが、これからも和泉市の皆さんの生命と財産を守るため消防団活動をつづけていきたいと考えております。

第九分団 団員 八重樫 秀和

二〇二二年に和泉市消防団へ入団し、二年が経過しました。この二年間では、火災現場への出動や台風・大雨の際の巡回など実際の災害対応も経験し、また先輩方から現場での活動やポンプ車の操作など様々なことを指導していただきました。初めて火災現場へ出動した際には、消防隊と消防団が連携して消火活動を行っているのを目の当たりにし、消防団の役割や消防隊との連携の重要性を強く感じました。

私は地元の岩手で東日本大震災を経験しました。仕事の関係で和泉市へ移住することとなり、また災害で苦しい思いはしたくないという思いから、消防団へ入団することを決意しました。今後も和泉市の消防団員として訓練や研鑽を積み、災害へ備えていきたいと思っています。



また、長年にわたって地域の安全のために御尽力いただき心からお礼を申し上げます。

(二十名)

二十三名

和泉市消防団